

# 秋の台風による漁業被害について

～ 10月の台風接近は過去最多～

今年は秋に入ってから台風が多く、10月に日本に接近した台風の数6個と、観測史上最多を記録しました。9月以降の台風は、太平洋南海上から放物線を描くように日本付近を通過しますが、秋雨前線の活動を活発にするため大雨をもたらすことが多く、伊勢湾台風など過去に大きな被害をもたらした台風の多くは9月にこの経路を取っています。

今年の晩い時期の台風の多さは、高い海水温と日本付近に強く張り出した太平洋高気圧、そして偏西風の影響が原因と考えられています。これらの台風は各地に被害をもたらし、漁業にも影響が出ています。今年の9月以降の主な台風について、漁業共済の加入者に被害状況を確認したところ、11月1日時点で21都道府県より、定置網漁業や養殖業を中心に被害の報告がありました。

比較的広範囲に影響のあった台風18号(9月15～16日)では、近畿・東海地方と北海道地方を中心に、また10月15～16日にかけて日本に接近した台風26号は、山陰地方、関東地方および東北・北海道地方に、それぞれ被害をもたらしています。

台風被害は、特に定置網施設や養殖施設に多いため、漁獲共済、養殖共済や特定養殖共済だけでなく、漁業施設共済とのセット加入が経営の安定にとって重要となります。漁業施設共済の加入率は他の3共済に比べ低いため、改めて同時加入の必要性を強く感じるようになりました。

11月に発生した超大型の台風30号(ハイエン)は日本への影響こそありませんでしたが、直撃を受けたフィリピン国内では甚大な爪痕を残しています。また台風以外にも、11月に入って既に二度の急速に発達した低気圧と寒冷前線の通過があり、これから冬場の低気圧被害等に備えて「ぎょさい」のさらなる加入促進、積立ぶらすの利用に、関係者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

最後になりますが、被害を受けられました漁業者の皆様には心よりお見舞申しあげますと共に、一日も早い復旧をお祈り致します。